

一人ひとりにあった生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか
～小・中における授業実践を通して～

I 研究の方法

- ・各教科の授業をキャリア教育の視点で実践し、資料を持ち寄り、情報交換および相互的に学習する。
- ・地域との連携、また職場体験について各校独自の実践を学び合う。

II 研究の具体的内容

1 授業実践

松里小学校 第4学年 総合的な学習の時間 (岡村 澄人 教諭)

单元名 「自分を見つめよう ～過去・現在・未来～」

- 目標
- ・自分の成長を確かめ、周りの人たちとのかかわりを知り、感謝の気持ちをもつ。
 - ・自分の将来への夢や希望、生き方などについて考え、前向きに生きていこうとする意欲をもつことができるようにする。

2 実践・資料発表

奥野田小	小学校におけるキャリア教育の実践例についての紹介
後屋敷小	小学校におけるキャリア教育の実践例についての紹介
笛川中	職業体験学習を通じた実践紹介
山梨南中	職業教育と進学指導の取組についての紹介
山梨北中	職業体験学習を通じた実践紹介
塩山北中	音楽科におけるキャリア教育の実践例についての紹介
松里中	「自分史づくりと未来予想図」についての実践紹介
大和中	職業講話を通じた実践紹介
塩山中	キャリアパスポート、職業体験学習を通じた実践紹介
勝沼中	「なくなる職業・なくなる職業」についての実践紹介

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・「一人ひとりにあった生きる力をつけるためのキャリア教育」という視点で、各校の持ち寄った実践をもとに研究を深めることができた。特に、小学校と中学校の先生方が所属していることで、小中互いの取組を知ることができ、実践を通じて小学校段階と中学校段階とで培いたいキャリア発達について考えていくことができた。
- ・職場体験の大切さや、経験することの大切さを中学校の実践から学ぶことができた。それが直接自分の将来の職業につながらなくても「働く」ということの意味を深める大切な取組であることを確認することができた。
- ・今年度から始まった「キャリアパスポート」について、各校の取組について情報交換し、共有することができた。
- ・今年度は昨年度から継続して所属している部員が半数近くいたことで、昨年度の研究成果にも触れながら「キャリア教育」という視点で継続的に研究を繋げていくことができた。
- ・授業研究では、児童が将来に向けてビジョンやイメージがもてるようにするための思考ツールの活用実践を学ぶことができた。「キャリア発達」は、ものの見方や考え方の熟達度が大いに関わってくるので、他教科や行事等でも使える指導のあり方を学べた。
- ・自分の将来を考えることはなかなか簡単なことではないが、二分の一人式などの様々な取組で考える機会をもつことで、近い未来を考えることができ、それが自分の遠い未来を考えていくことに繋がっていくことがわかった。

2 課題

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、例年行っている近隣の高等学校教諭の招聘ができなかった。来年度以降、必要に応じて学習会として、高校入試や高校生活、その後の進路指導などについて学べる機会をもてるとよい。
- ・実践の内容が、どうしても職場体験や総合、学活中心になるので、各教科におけるキャリア教育についても取り組んでいけるとよい。
- ・小中の先生方が一緒に研究していることをさらに生かし、小中の連携でより成長させることができる点は何か、そのためにどのような手立てが必要か、発達段階などを考慮しながら研究できるとよい。
- ・「①キャリア発達」という視点と「②職業指導」という視点の2本立てで分けて研究していけると、様々な部会に対応できる成果が上げられるのではないかと。

Ⅳ 成果物

- ・小学校4年総合的な学習の時間学習指導案
- ・各校実践レポート

(部長 若月敬二郎)